2018年7月の西日本豪雨災害を受けた倉敷市真備町の視察

2018年 7月 16日

田 村 和 夫

真備町視察内容

日時：平成30年7月15日　9時～11時半

場所：倉敷市真備町　浸水地域周辺

視察者：和田章、田村和夫
　　中西啓二（岡山理科大教授）

視察地域（国土地理院浸水推定図に追記）

小田川破堤部周辺

小田川破堤部付近の住家

2階途中の高さまで浸水

基礎沈下被害を受けた建物（吉備真備駅付近）

地盤（砂層）
がえぐられて
建物が傾いている
基礎部は変形している

基礎沈下のない建物（吉備真備駅付近）

セメント系杭基礎で支えられた
新しい住宅（一見傾いてはいない）

小田川破堤部付近の様子

堤防復旧用の土嚢を積むトラック

堤防脇のビニールハウス
は破れていない

川辺宿駅近くの建物（高梁川近く）

土壁の建物の被害

新しい家（壁が多く開口が小さい）
外壁に目立った汚れはない

高梁川鉄橋付近

川辺宿駅付近の廃棄物

道路脇に積まれた廃棄物

現地の状況（メモ）

猛暑の中、災害復旧作業中

鉄道は不通、水は仮復旧

道路は通行可（一部の信号は作動していない）

各家屋にて片付け作業中（泥で汚れた部分の清掃、家具等の搬出）　→　家具・電気製品等の廃棄

断熱材等の家屋仕上げ材の剥がし等作業

ボランティアの配分が不均等（真備町）

堤防破堤部の復旧中

メールによる避難呼びかけにより避難した・・・

高台の避難所に避難（浸水地内の学校体育館は使用不可）

高梁川も越流まで1.5m程度？

建物の被害状況（メモ）

浸水深さは最大時で3～4m以上

建物が流されている例は見られない

→　室内浸水（浮力との関係）、津波や土石流とは異なる

破堤部に近い地域はブロック塀等が倒れている

破堤部からの水流の影響の大きな家の被害が大きい

（基礎地盤がえぐられて傾いた家あり、

杭基礎の家は傾いていない）

建物構造は残ったが、室内はすべて廃棄物になった

新しい住宅は、古い土壁式住宅よりも外壁汚れがめだたない

住家周辺の頑丈な塀による敷地を守る効果ありそう

疑問点・課題など

破堤部の復旧設計と今後の洪水への備えは？

全国に同様の地区はどの程度あるのか？

堤防の設計はどうしているか、どうするか？

廃棄物処理に向けた対応法は？

避難に向けた情報伝達の時期とタイミング

避難所と避難方法（地震時の避難、津波に対する避難、洪水時の避難、火事の避難）

高齢者施設はどうだったか？

周辺地域のバックアップ

・・・

河川と流域の設計思想は？

極く強い豪雨に対して河川・流域をどのように考えるのか

ダム、堤防

流域全体のどの地域に水を流すのか？　ためるのか？

どこを壊すのか？

流域の施設配置と施設自体の設計は？

地域、雨量別の避難計画との関係は？

現状の全国の河川にはどの程度の安全性があるのか？

破堤した部分の復旧設計と今後の洪水への備えは？

→　個々の地域による固有の条件を考慮した設計が重要

施設の設計にも配慮が必要？（RC造中高層建物の活用）